

2022年03月24日

報道関係者各位

株式会社東急Re・デザイン

リフォーム業界初 「開口がとれる幅狭耐力壁」を耐震システムのラインナップに追加 狭小間口住宅への地震の備えと開放感を実現

東急不動産ホールディングスグループの株式会社東急Re・デザイン（本社：東京都世田谷区 代表取締役社長：横山 修三）は、戸建狭小間口住宅にも対応した耐力壁（幅 450mm）に岡部株式会社（本社：東京都墨田区 代表取締役社長：河瀬 博英）の「ブレスターH（耐震）」を採用し、1月より定価制リフォームの標準仕様※として販売を開始しましたのでお知らせいたします。※建物形状による

お客さまより狭小間口住宅のリフォーム時に耐震強化のご相談や開放的な空間のご要望をいただく機会が増え検討していたなかで、弊社と東京都市大学名誉教授 大橋好光先生との共同研究会に参加している岡部(株)にて新規開発中の金物が弊社の要望と一致したため、意見交換を重ね導入にいたしました。

■ブレスターHの特徴

①狭小壁だけど耐力壁

TypeW600とTypeW450があり、後者は幅600mm未満の壁幅にも適用。

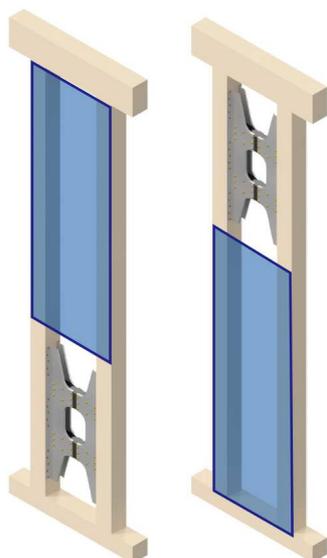
②設置高さが自由

空いたスペースに窓を付けることが可能。耐力壁でありながら開口にできるのは、リフォーム業界では初。

耐震性を確保しつつ、間取りの自由度が上がるため、間口が狭く壁の少ない住宅でも安心安全なリフォームを提案することができます。

<イメージ>

▼空いたスペースに窓を設置



▼大開口窓の側壁に配置



■東急Re・デザインの耐震システム

東急Re・デザインの震度6強と余震に備える「耐震システム」は、繰り返しの地震でも住み続けられることを重視した家づくりを目指しリフォーム工事の標準としてまいりました。昨年には、オリジナルの耐力壁「東急Re・デザインのSTRONG WALL」を開発、標準装備とすることで、今後発生するとされている首都圏直下型地震でも住み続けられる住宅への再生を実現しています。

一般的に安全性と開放感は反比例の関係と言われますが、このたび岡部(株)の幅狭耐力壁プレスターHを採用、標準装備とすることで狭小間口住宅に対応した「耐震強化」と耐力壁に窓が設置できる「開放感」を実現し、安全でかつ開放的な空間の提案を可能にしました。

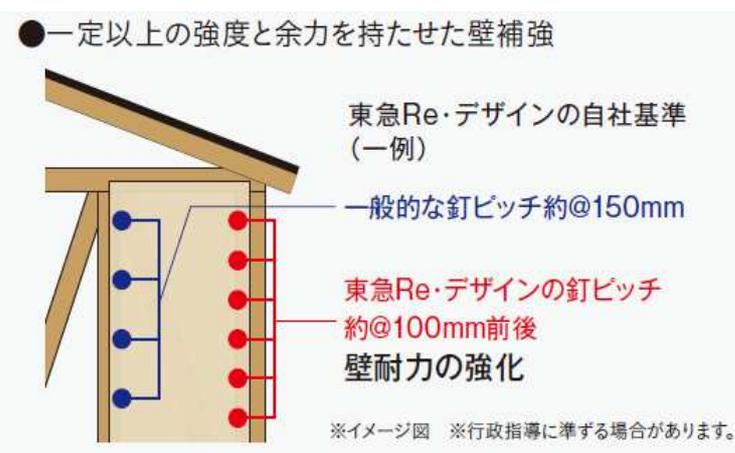
<東急Re・デザインの耐震・制震システム ラインナップ>



▼ストロングウォール



▼壁耐力の強化(釘の増し打ち)



■販売開始 2022年1月

東急Re・デザインの戸建まるごとリフォームは、芯から強く、永く住める家を目指し、「人命を守る」ことはもとより、繰り返しの大地震の後にも「住み続けられる」ことを重要と考え、これからも耐震改修にこだわり続けてまいります。



東急Re・デザイン



東急Re・デザインは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。